

2016年9月27日

HOBIA NEWS No.329

目次

- HOBIA 見学会催行のご案内（参加者募集中）
- 平成28年度北海道バイオマスフォーラム開催のご案内
- アグリバイオフォーラム報告
- 地域バイオ育成講座開催のお知らせ
- 大学だより

● HOBIA 見学会催行のご案内（参加者募集中）

HOBIA では例年のように見学会を催行することにいたしました。新たな見聞を広めるとともに、会員間の交流もはかる良い機会ですので、ふるってご参加ください。

催行日：平成28年10月25日（火）
目的地：千歳市 及び 苫小牧市
参加費：1,000円（会員） 1,500円（非会員）
定員：15名（定員になり次第締め切らせていただきます。）

【訪問先】

- 1) チトセ浜理薬品株式会社（千歳市泉沢 1007番地81）
- 2) 苫東ファーム株式会社・苫東植物工場（苫小牧市字柏原41-1）

【旅行行程】

9:00 札幌駅北口バスプール（集合）出発
10:00 チトセ浜理薬品株式会社 到着
11:30 チトセ浜理薬品株式会社 出発
12:00 昼食場所到着+
13:00 昼食場所出発
13:30 苫東ファーム株式会社・苫東植物工場 到着
15:00 苫東ファーム株式会社・苫東植物工場 出発
16:00 札幌駅北口バスプール到着（解散）

【申込】HOBIA 事務局

FAX: 011-706-1331 Mail: jimu@hobia.jp

平成28年度 HOBIA 見学会参加申込書 締切：10月11日（火）

氏名	所属	役職	連絡先 (電話・mail等)

【誓約事項】見学で知り得た守秘義務が発生する全ての情報について、その後一切口外しないことを誓約します。

● 平成28年度北海道バイオマスフォーラム開催のご案内 「道内バイオマス利活用と事業化戦略」

バイオマス研究開発の利点は、地域のエネルギー確保と同時に、環境保全の観点で重視されています。道内でも再生可能エネルギーの開発が急がれる中、膨大な農畜産・林産・水産各分野の未利用バイオマス資源が産業廃棄物として排出されていますが、これらの利活用が静脈産業として成功すれば、「地方創生」対策として若者の雇用創出に大きく貢献するものと考えます。

今回は、バイオマス資源循環がご専門の北海道大学大学院の石井一英先生に、道内における事業化の事例と事業化戦略の展望を語って頂きたいと思います。多数の参加を期待しております。

日 時 : 平成28年11月21日(月) 14:00~16:00
会 場 : 札幌エルプラザ4階大研修室A(札幌市北区北8条西3丁目)
主 催 : NPO 法人北海道バイオ産業振興協会(HOBIA)
後 援 : エコロジア北海道21推進協議会
参加費 : 無料

【内 容】

14:00~14:10 開催趣旨説明

北翔大学・北翔大学短期大学部 学長 西村 弘行 氏

14:10~15:40 講演「循環型社会とバイオマス利活用」

北海道大学大学院工学研究院 循環計画システム研究室

准教授 石井 一英 氏

15:40~16:00 バイオマス利活用に関する意見交換

参加申し込み：11月14日(月)までに所属・役職・氏名を記載し、下記宛
お申込み下さい。

北翔大学 学長室 西村 弘行

E-mail: nisimura@hokusho-u.ac.jp (siに注意)

TEL: 011-387-3900 FAX: 011-387-3917

所 属	役 職	氏 名

● アグリバイオフォーラム報告

「遺伝子組換え作物商業栽培開始20年を迎えて-これまでとこれから」

日 時：2016年7月9日（土曜日）13：05から17：00

場 所：北海道大学農学部講堂

主 催：NPO 北海道バイオ産業振興協会（HOBIA）

共 催：日本バイオテクノロジー情報センター

協 賛：バイテク情報普及会（CBIJ）

後 援：北海道経済産業局、 バイオインダストリー協会（JBA）

協 力：北海道

2015年は、表題のように遺伝子組換え作物商業栽培開始されて20年目となりました。これを機会に様々な分野からのお考えを伺い、これからの遺伝子組換え作物とこれら由来の食品や飼料そしてこれらを栽培することによる地球環境への影響について議論する場を持ちたいと考え下記の方々はその立場を代表してご講演をお願いしました。さらに参加者からの質問に答えるとともにパネルディスカッションを行い、これらに関する理解を深め、そしてこの課題に対するこれからの展望したいと願って企画しました。

「おいしく、安全に食べるためのしくみと消費者の認識」:

戸部依子氏（NACS 消費生活研究所 / 食生活特別委員会）

消費者としては、遺伝子組換えに関する情報に限らず、食生活を送るうえで、本当に必要な情報は何かを見極めたい。行政は、そもそも表示のしくみ（表示義務）が意図するところは何か？を明確に説明し、消費者は理解する必要がある。

事業者からは、できていることできていないこと（生産や製造現場の実態。たとえば分別管理）、表示内容について説明を聞いてみたい。

食品の安全性を守るしくみの課題としては、消費の現場・消費者の認識・リスク管理の実態・ものづくりの現場の実態をふまえて、レビューと検証・見直しが必要。と講演し、遺伝子組換えに限らず安全性をどう担保するかが重要と述べた。

「北海道におけるGMビートの可能性」: 小野寺靖氏（北見市農業生産者）

ビート栽培の重要性と、栽培に当たっての除草の問題が大きいことを実例を示して、除草剤耐性のGMビートの可能性について要望を述べた。これまで北米で行われていることから試算すると10アールあたり約28,000円の収益増が期待できるので是非とも試験をしてもらいたいと述べた。

「メディアから見た遺伝子組み換え作物問題」: 小島正美氏（毎日新聞社記者）

記者として当初は座学のみで判断してGM反対の記事を書いてきたが、米国、フィリピンなどの現地をみて、間違いであることに気がついて、その有用性をはっきりと分かった。記者（メディア）は、往々にして何も現実をみないで記事を書くことのあることを率直に述べた。科学者（専門家）は、どうしたらそれが正しく伝わるのかがわかっていないし、活動もしない。子宮頸部ガンワクチンを例にしてその有用性は理解していても副作用は必ずあるので、その被害者の訴えを大きく取り上げることになり、実際と異なることになる。GM作物についても同様で、正しいことはなかなか伝わらない。また一般の読者は、怖い話、恐ろしい話には興味を示すが正しいことにはなかなか興味を示さないと話した。

「**学術面から食の安全の科学者として**」： 唐木英明氏（食の安全・安心財団 理事長）

毒性学者としての立場と科学知識の広報について話をした。食品の安全性などの動物実験は、少なくとも一群50匹の試験が必要であり、また用量依存性も確かめるようになっていながらも関わらず、科学的でないものが出版されることがある。セラリーニ氏の実験に不備があるとして取り下げたにも関わらずこれを収載する科学雑誌がでていることは、専門家からみてあきれるとともに残念である。科学者（専門家）が黙っていることが多いのが問題の一つであるとの指摘をした。ことに遺伝子組換えについては、トリプトファン事件がたびたびでくるが、これは、トリプトファンの過剰摂取が原因であると後に明らかにされているのだが真相は全く知られていないし、伝わっていない。かように正しい科学的根拠に基づくことは伝わらないことが多い。GMに関しても全く安全性などに問題がないにも関わらず先のトリプトファンやグリホサートに関する科学的根拠のないことがまかり通っているのは、専門家が全くと言っていいほど正しい情報を伝えないからであると述べた。

パネリスト： 小野悟氏（北海道農政部食の安全推進局長）

北海道の遺伝子組換え条例は、交雑の防止を狙ったものでその安全性に関するものではない。また、消費者の目線を第一に考えて農業政策を立てていると述べた。また、GMに関しては、一定の評価をしているとした。

パネリスト： 山田敏彦氏

（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・生物生産研究農場教授）

バイオマスをエネルギー生産原料として実験をしている。GM作物の利用にはポジティブな評価を与えている。

北大に隔離圃場がないのは、農学部からの要望がないからであると答えた。

パネルディスカッションでは、様々の意見が出たが、GMに一定の評価を与えているとの考えには、大方同意があった。しかし、行政は先にも書いたように「消費者目線」を第一にするとのことでこの点では、他のパネリストから反論があった。むしろGMの有用性をしっかりと行政からも広報する必要があるとの見解である。

富田房男（HOBIA 名誉理事長・アグリバイオ研究部会長）
（日本バイオテクノロジー情報センター 代表）

● 地域バイオ育成講座開催のお知らせ

北海道食品機能性表示制度(ヘルシーDO)の制定から3年が経過しました。機能性食品の開発は、ハードルが高く1つずつ理解を進めて開発に取り組むことが必要です。このセミナーでは制度の概要や事例紹介をおこないます。ぜひご参加ください。

■ 地域バイオ育成講座 in 旭川「健康食品開発セミナー」

日時：平成28年9月30日（金）16：00～18：00

会場：アートホテルズ旭川 2階ローアン（旭川市7条通6丁目）

定員：30名（先着）

参加費：無料

内容：(1)「北海道食品機能性表示制度『ヘルシーDo』概要」

講師：一般社団法人北海道バイオ工業会

事業企画・運営委員 主幹事 三浦健人氏

(2)「ヘルシーDo 取得支援事例の紹介」

講師：公益財団法人北海道科学技術総合振興センター

研究開発支援部長 工藤昌史氏

(3)「カラダに効くってどういうこと？」

講師：旭川食品産業支援センター センター長

HOBIA 副理事長 浅野 行蔵 氏

詳しくはこちら http://www.arc-net.co.jp/arc-net/data/H28_eisei_seminar4.pdf

■ 地域バイオ育成講座 in 留辺蘂 (現北見市)

日 時：11月24日(木)

会 場：温根湯温泉「大江本家」

共 催：はまなす財団(るべしべ白花豆くらぶ)

詳細は、次号でお知らせします。

● 大学だより

藤女子大学の紹介

藤女子大学は、札幌キャンパス北16条西1丁目、花川キャンパス 石狩市花川北に位置し、それぞれ約1,000人の学生が通っています。HOBIAに関係する食物栄養学科は花川キャンパスに有り、約340名の学生がいます。

1年生は、教養科目と専門導入科目が配置され、高校生から大学生になる橋渡しの授業が行われます。2年生から3年前期に

なると、専門職が強くなり、食品のこと、人体のことをはじめ人と接する術や物事を伝える能力を養います。3年生後期は実習に出掛けます。他大学等の管理栄養士課程では、4年生で実習に出ることが多いようですが、本学では実習から帰ってきてからの学びを重視し、多少未熟でも3年生の段階で実社会での学びを重視しています。4年生では、他の理系4年制大学と同様卒業研究を1年間集中して行い、英語論文などを読みながら、未知のテーマに向かって取り組む実験研究や、調査研究を行っています。

就職は、約半分が管理栄養士として病院、高齢者等施設、地方自治体(北海道、札幌市など)、給食委託会社等に働きます。また、食品等の企業が4割、修士課程への進学は5%位です。

藤女子大学では、今後も「北海道の未来は女子教育にある」の信念のもとリベラルアーツ教育を基礎とした社会に役立つ専門能力を身につけた学生を社会に送り出して参ります。

HOBIA 理事・企画運営委員 池田隆幸

(藤女子大学 教授)



藤女子大学 花川キャンパス

HOBIAのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボ北海道内
Tel&Fax (011) 706-1331
e-mail: jimu@hobia.jp